

野崎 豊(のざき ゆたか)先生のプロフィール

昭和46年 慶応義塾大学医学部卒業

昭和49～51年 米国 フィラデルフィア ペンシルバニア医科大学

昭和51～56年 慶應義塾大学助手およびティーチングスタッフ

昭和56～60年 山梨医科大学勤務、自治医科大学講師

昭和63年 ノザキクリニック開業

日本小児科学会専門医、日本東洋医学会代議員・漢方専門医

日本臨床内科専門医、日本体育協会公認スポーツドクター

専門科目： 小児科、内科、リハビリテーション科、アレルギー科



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

祖父が煎じているのを子供の時見ていたものの、漢方を飲むのが嫌いで見向きもしなかったが、持病の喘息が治らず、学生時代に薬局で煎じ薬を買い飲んだのが初め。

その後、山田光胤先生に昭和56年夏より通い、昭和57年3月より正式に弟子に入れてもらい、今日に至っている。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

妊娠を希望する人、アレルギー疾患など免疫疾患、自閉症や精神分裂症などの西洋薬のコントロールを改善等に漢方治療が役立っている。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方:西洋 = 9:1

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方治療を中枢にしたハーブを西洋漢方といって取り入れているので、代替医療体系の中で中枢的役割を果たすものになって欲しい。



◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

喘息が煎じ薬を飲むと不安感がとれ、気持ちが慰められる独特の感じを持ったことが本当に救われたと思った。

又、薄皮がとれるように良くなることも、特効的にすぐ効くこともあるが、必ず心身一緒に良くなるのが素晴らしいと実感している。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

あせらず、一つの処方をとことんこだわる姿勢が必要。そして一つ一つ身につけていって欲しい。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

何でも好奇心を持って試してみて欲しい。そうすると、今まで西洋治療で経験出来なかった感動が得られます。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

あくまで愚鈍であれ。



注意:先生へのインタビューは、当会が2006年12月に行った内容です。